

ニホンザル被害をふせぐために

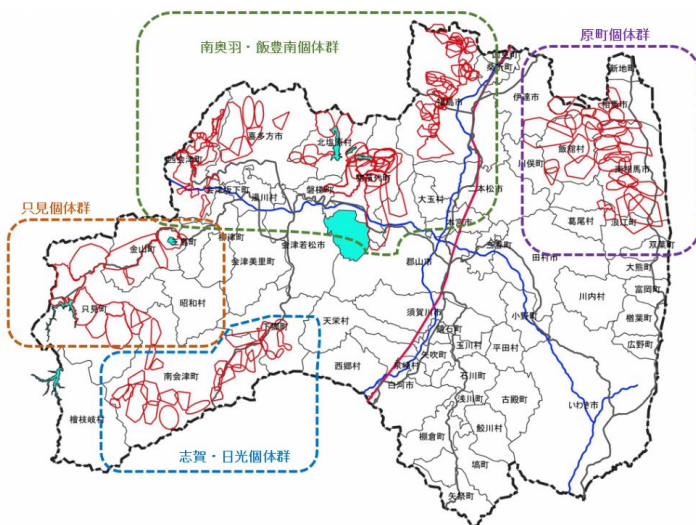
～生態～

群れで決まった範囲で活動することなど、特性を理解しましょう。

1. 餌のある場所で暮らす

木の実がなる森を中心に生活しますが、人の食べ物を覚えてしまった場合は、集落周辺に居ついてしまいます。

地形等により区分した各地域の個体群及び群れの分布図
赤線：群れの遊動域



個体群名	対象市町村名
南奥羽・飯豊南個体群	福島市、喜多方市、二本松市、桑折町、国見町、北塩原村、西会津町、猪苗代町、柳津町
原町個体群	二本松市、伊達市、相馬市、南相馬市、川俣町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村
只見個体群	柳津町、三島町、金山町、昭和村、会津美里町、只見町、南会津町
志賀・日光個体群	天栄村、西郷村、下郷町、檜枝岐村、南会津町

令和3年度市町村管理計画をもとに県自然保護課が作成



3. 人の食べ物が増加を促す

自然の中では、6～7歳で初めて出産し、その後は2～3年に1頭の子供を産みます。農作物など人の食べ物を食べるようになると、より若い時期から毎年のように出産することがあります。

4. 立体的に動く

跳躍力は上や横に2m程度で、指先がかかれば壁を登ることができます。

5. 餌は目で探す

目や耳や鼻は人並みで、餌は匂いではなく、視覚で探します。

6. 群れで生活

メスが中心となる約10～100頭で生活します。メスは生まれた群れで生活しますが、オスは大人になると他の群れに移動します。群れから離れて行動する場合もあり、ハナレザルと呼ばれます。

2. 人の食べ物はごちそう

植物を中心とした雑食性で、冬芽、若葉、木の実、昆虫などの小動物、様々なものを食べます。栄養価の高い人の食べ物を特に好みます。

ニホンザル被害をふせぐために ～対策～

ニホンザルを理解し、関係者で協力して効果のある対策をしましょう。

1. 集落を餌場にしない

集落で餌が手に入ることを学習すると、農作物に被害が出ます。群れであるため、一度に大きな被害が出る場合があります。さらに、人が怖くないと覚えてしまうと、人家侵入や威嚇等の生活被害が起こるようになります。

2. 人の食べ物がサルを呼ぶ

カキやクリなどの実、傷んだ農作物や生ごみを野外に放置すると、格好の餌場になります。

見通しの悪い林は隠れ場所になり、周辺で被害が出やすくなります。



放棄果樹採食



カキ食痕



トウモロコシ食痕



農地侵入

3. 総合的な対策が効果的

一人で対策をしても、周囲に餌場や隠れ場所があると対策の効果は出にくいです。また、捕獲により頭数が減っても、集落がサルにとって暮らしやすいままだと、被害は減りません。

対策は、できるだけ集落で協力して、組み合わせて行うと効果が出ます。

✓ 餌をなくす

餌になるものを野外からなくし、餌場だと覚えさせない。

✓ 隠れ場所をなくす

藪の刈払いや林縁の見通しを良くし、サルが安心できる場所をなくす。

✓ 守る

防除柵の適正な設置と管理により、農地に入れないようにする。

✓ 追い払う

協力してしつこく追い払い、集落をサルにとって嫌な場所にする。



果樹管理



サル用複合柵

サル被害でお困りの場合は、具体的な対策手法について、お住いの市町村役場の担当課へお問い合わせください。

また、県は、適正にサルを管理するため、福島県ニホンザル管理計画を作成しています。詳しくは、自然保護課ホームページをご確認ください。